

松禪寺報

<http://syozen.com>

石室山松禪寺

住職 高橋 乾峰

〒 668-0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾 469

電話 0796-55-0034

FAX 0796-55-0066

Mail kenpou@syozen.com

第 49 号

発行日 平成 24 年 7 月 20 日



明日

安積 得也

はきだめに

えんどう豆咲き

泥池から

蓮の花が育つ

人皆に

美しい種あり

明日何が咲くか

写真：龍雲寺様（福知山市雲原）撮影

震災や原発問題などにも触れながら

『行ずる』テーマに妙心寺派定期巡教を開教



▲布教師さんの法話に耳を傾ける皆さん＝3月19日、松禪寺

冬の寒さが残る3月19日の午後2時から、本山布教師さんにお出でいただいたの定期巡教を開きました。布教師さんは、静岡県浜松市からお越しになった木村文達師（龍梅寺御住職）で、今年のテーマは『行ずる』。生かされている自分を感じ、報恩の行を積みましよう（生活信条より）とでした。同師は自らの体験をもとに、言葉の大切さ、身なりを整え、心を整えるとはどういうことなのかなどを説かれました。また、「家庭は是れ敬愛の場（にわ）にして子女養育の道場なり」（宗門安心章）と教典にあるように、円満な家庭を築くための秘訣も話されました。また、この度の大地震や原発事故などにも



▲妙心寺派布教師 木村文達師（浜松市・龍梅寺）

整えるとはどういうことなのかなどを説かれました。また、「家庭は是れ敬愛の場（にわ）にして子女養育の道場なり」（宗門安心章）と教典にあるように、円満な家庭を築くための秘訣も話されました。また、この度の大地震や原発事故などにも

触れ、「足るを知る」暮らしについて、いかに「行ずる」かを説かれました。参加者からは、まず自らのことを表にだされ、そこから話を展開されていたので、今まで

春彼岸会を執り行いました

19日定期巡教開教に続き、20日は彼岸会を営みました。午前8時半から当番さんたちが集合、食事作りが始まりました。お昼前に本堂でお参りの皆さん約30名あまりと共に、お経をあげました。その後、お話をさせていただき、当番さん手作りのお弁当をいただきました。とても美味しくいただきました。夜には、兼務寺院の彼岸会も勤めました。



東日本大震災被災物故者の追悼会営む

一周忌を迎えた3月11日に当山にて執行

当山では3月11日、東日本大震災被災物故者追悼の弔鐘及び一周忌法要を営みました。東日本大震災が発生した午後2時46分、お経を唱えながら大鐘を撞き、引き続き本堂において一周忌法要を営みました。経を読み、祈る事しかできませんが、平安な日々が訪れることを祈って勤めました。

例えば、阪神淡路大震災、但馬地方を襲った台風23号、東日本大震災、和歌山方面を襲った台風な



▲地震が発生した午後2時46分に弔鐘を撞きました



ど、自然の猛威になす術もなく、尊い生命が奪われています。自然と共に暮らしを営んでいる私たちにとつて、これら自然の猛威も受け止めなければなりません。だからこそ、今在る命を大切に生きる姿勢が大事なのではないと思います。



平成 24 年度 妙心寺派 花園会新亡供養にお参りしてきました



▲法堂（はつどう）で行われた新亡供養

亡供養は全国の妙心寺派寺院のお檀家さん、花園会員さんの中で、前年4月1日から本年3月31日迄にご家族を亡くされたご遺族を対象に行われている慰霊法要です。

御導師は妙心寺派管長 猊下で、山内の老大師方や和尚様方、宗務本所のご重役方も御出頭なさる大きな法要です。

6月27日から7月3日まで、大本山妙心寺で平成24年度花園会新亡供養が行われました。

最終日の3日、松禪寺の檀家さん2軒5名が参加されました。新

最終日の3日は生憎の雨天でしたが、多くの花園会員がお参りされ、広い法堂も満員状態で、いずれの皆さんもご家族のご冥福をお祈りされていました。法要が終わり、大方丈で精進料理を共にいただきました。



今年も教区坐禅会に百名を超える参加者

山陰東教区主催による第29回坐禅会が6月9日（土）、10日（日）の両日、朝来市新井の神照院様を会場に開かれました。二日間延べ百人を超える皆さんが参加されました。講話には、妙心寺山内は靈雲院の老大師が今年も行われ、「宗門安心章」について提唱されました。

四国八十八ヶ所霊場巡拝「結願」の旅

参加者12名が結願証を授与

平成22年4月から始めました和尚と一緒に巡る「四国八十八ヶ所霊場巡拝の旅」ですが、いよいよ結願を迎える第6回目を、4月23日から25日までの2泊3日で実施しました。最終回は、讃岐の国(香川県)17ヶ寺を巡拝しました。

79番天皇寺までの巡拝でした。文句なしの快晴で気温も20度を上回り、とても暑い一日でした。空は青空、すでに新緑が美しい初夏を思



▲般若心経など読経＝第72番 曼荼羅寺(徳島県善通寺市)

わせる陽気です。暑さで疲れもありました。が、やはり雨のなかより、このような快晴のもとを巡拝できるのは、幸せなことです。夜は、高松市内の温泉でゆっくり休んで明日に備えました。

24日は、午前中は第80番国分寺から第84番屋島寺まで巡拝しました。快晴でしたが空気も爽やかで汗もかかず、気持ちの良い巡拝でした。お昼は讃岐名物のうどんをいただきました。有名な「山田家」というお店で、お腹一杯になりました。午後からは第85番八栗寺から第87番長尾寺まで巡りま



▲第88番 大窪寺の参拝を終えて、安堵と喜びの記念写真を撮影しました。

したが、午前とは打って変わって暑くなり、少々疲れました。それでも皆さんとても元気で、ついには1ヶ寺を残して2日目の宿に入りました。今宵の宿は塩江温泉です。山間の静かな温泉で夕食を楽しみました。「2年間かかったけれど、終わりが近づくと寂しい感じがする」と皆さん口々に話され、ぜひ次回の企画を考えてと言われ、幹事役としてはうれしい限りでした。いつもの夕食は食べて終わりですが、この日は後1ヶ寺



▲快晴に恵まれて巡拝も順調に＝第75番 善通寺(善通寺市)



▲平成 22 年から 2 年、6 回に分けて 88 ケ所を無事巡拝できました。雨に見舞われたのは 1 日だけで、天候にも恵まれ全員が最後まで巡拝することができました＝第 88 番 大窪寺（徳島県さぬき市）

で結願ということもあり、最後は全員で「上を向いて歩こう」を大合唱しました。

25 日は、第 88 番大窪寺をお参りし、納経帳などの確認を経て全員無事に「結願証」をいただくことができました。帰る前に、平成 22 年にお参りした第 1 番霊山寺に再度巡拝して無事結願を報告しました。

帰路は鳴門大橋を渡ったところ

で海の幸の昼食をいただき、さらに「あわじ花さじき」に寄り、満開のポピーなど春の花々を愛でて帰ってきました。

無事 88 ケ所を巡拝し、今年 10 月 29 日（月）、30 日（水）に高野山へお礼の参拝を実施いたします。



▲薬師如来祠の台座の下に、地獄へ通じる穴があるといわれ、心がけの悪い人は頭が抜けなくなる＝第 83 番一宮寺



▲帰りに立ち寄った「あわじ花さじき」では、色とりどりの花が迎えてくれました。



▲バスでの巡拝とはいえ、札所にはこのような階段も多く、ゆっくりと一歩ずつ目指しました＝第 82 番 根香寺（高松市）



▲手を洗い、身を清めてお参りします

お釈迦様の生誕を祝う「花まつり」に子どもたちが参加

当山は「子どもの日」に、出石・但東仏教会は5月19日開催

5月5日の子どもの日、松禪寺ではお釈迦様の生誕を祝う「花まつり」(降誕会、灌仏会などともいう)を実施しました。五月晴れの境内は本堂前に花御堂を設け、甘茶を用意しました。近所のお子さん連れから、田畑の仕事の合間にお参りいただいた大人の皆さん

まで、花を供えて甘茶を誕生仏にそそいでお参りしていただきました。遠く西宮市からお越しいただいたご夫婦は、「T2」をご覧いただいてのご来山。お天気も良く、良きお参り日となりました。



▲花まつりにお参りして、甘茶を飲む子どもたち＝5月5日

また、快晴に恵まれた5月19日(土)、出石・但東仏教会(会長・高橋乾峰)でも初めて「釈尊降誕会―花まつり」を開催しました。同仏教会は、出石町と但東町の42ヶ寺の仏教寺院が会員となつて組織されていますが、前会長である吉祥寺様(曹洞宗)の時から懸念となつていた花まつりを具

体化しようと、今年に入ってから実行委員会を組織して、この日の本番を迎えた次第です。

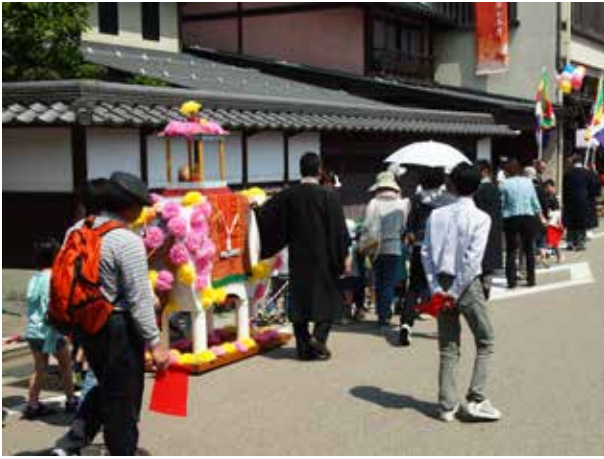
午前8時、最初の会場となる出石町の勝林寺様(浄土真宗)に実行委員らが集合、最終打ち合わせを行い、午前8時半から受付を始めました。今回は、子どもたち約50人が参加、ご両親やご家族なども含めると80人余りの参加となりました。受付では、最初に子どもたちに腕輪念珠を付けてもらいました。午前8時45分からオリエンテーションとして、会長が開会挨拶し、その後、担当の御住職が次々とプログラムを担っていきます。合掌礼拝の仕方、花まつりの意味などについてお話がありました。続いて、三帰依の練習です。「ぶつだん さらなん がっちゃーみー」という歌です。子どもたちはすぐに覚えてしまい、大きな声で歌ってくれました。



▲花御堂に安置されたお釈迦様にお参りする子どもたち＝5月19日、勝林寺様(出石町)



▲宗鏡寺様の本堂でもお参りしました



▲出石の街を歩く白象と子どもたち

次は、西宗寺様（浄土真宗）からお借りした誕生仏を安置する御堂と白象に、紙で花をつくり飾り付けてもらいました。飾り付けが終わると、三帰依が流れるなか子どもたち全員が順番に献花して甘茶をそそぎました。みんな真剣にお釈迦様に甘茶をそそいでいました。それを終えて、会長が「誕生日は、大事な日のちをいただいた特別な記念日。だから、おめでとうと祝ってもらったら、ありがとうって言うおうね」とお話をしました。

さあ、いよいよ記念写真を撮影してからパレードに出ました。出

石の町中を子どもたちが白象を引いて、ゴールとなる通称「たくあん寺」宗鏡寺様（臨済宗）へ向かいます。公道を歩くわけですから、警察の許可もとりました。暑いくらいの快晴でしたが、休む事もなく子どもたちは元気に白象を引いてくれました。沿道の皆さん、観



▲花まつりパレードに出かける前に記念写真を撮影＝5月19日、勝林寺様にて

空に吸い込まれるようにグングンと上っていきましました。そして最後のお楽しみ。若い住職、副住職さんたちが威勢良く掲げ上げた餅をいただきました。きなこ餅、おろし餅、まる餅、古代米の紫色がきれいなお餅など、もう盛りだくさん。何度も

光客の皆さんも声援を送ったり、写真を撮ったりと賑やかです。宗鏡寺様では本堂に白象と御堂を安置し、ここでも献花と甘茶かけを子ども達に行ってもらいました。それを終えて外へ。花の種



おかわりする子どもたちもいました。正午前には、お菓子と献花した花を子どもたちは受け取り、閉会となりました。

宗派の枠を超えて、お釈迦様の生誕を祝う行事に取り組み、広く多くの人々に「花まつり」行事に触れてもらい、知ってもらい、さらには、一人一人の命の大切さ、尊さを訴える、そんな思いでこの事業に取り組みました。来年も行われる予定ですので、ぜひお子様連れでご参加ください。

平成 24 年

施 餓 鬼 会



【日時】 8月7日（火）

午前10時より



施餓鬼会は、お釈迦様の十代弟子のお一人、
阿難尊者の故事により、飲食供養の功德により
亡者を救う行事として起こったものです。
「餓鬼に施す」と書きますが、餓鬼とは六道
のひとつで、苦しみの世界であり、食べ物がない
飢えの世界なのです。しかも、餓鬼は自分の
力で餓鬼世界から抜け出すことができないため、
施餓鬼供養がその救いの道とされています。
有縁はもとより、無縁の衆生に対しても供養する
法要であり、自分自身に与えられた生命に感謝する
意味合いもあります。

今年も多数の和尚様により法要を執り行います。
施餓鬼はもともと初盆など特定の霊を供養するもの
ではなく、ご先祖様を始め、志す精霊にご供養する
ことによつて施主皆様の現世安穩が得られるとい
われています。ぜひ、ご家族お揃いでお参りくだ
さい。

なお、施餓鬼会の日程と今年初盆を迎えら
れる方は下表のとおりです。

No.	喪主(敬称略)	住所	続柄	故人名	命日
1	山門大施餓鬼・添施餓鬼				
2	森下よしゑ	栗尾	夫	長夫	平成23年8月26日
	中島 昭	佐田	母	もと	平成23年8月28日
	中島 一之	栗尾	父	誠一	平成24年1月5日
3	福田 達也	平田	母	正子	平成24年3月23日
	西 幸信	佐々木	母	かや子	平成24年6月19日
4	高橋 知子	栗尾	夫	信雄	平成24年4月3日
	西垣 源正	栗尾	母	鶴江	平成24年3月21日
5	中島あい子	佐田	夫	忠雄	平成24年3月4日
6	鶏魂供養				

平成 24 年 お盆参りの日程

棚経実施日	地 域
8月9日(木)	清滝→本城→柴地→山根→貝田
8月10日(金)	久畑→石原→佐田→大貝→平田→佐々木
8月11日(土)	出石町→南尾
8月12日(日)	豊岡市→福知山市→岩滝
8月13日(月)	西谷

お寺からは、9
日から13日の間、
棚経といつて各檀
家を廻つて回向い
たします。下表の
日程で参る予定で
すが、諸般の都合
から急遽変更する
場合もありますの
で、あらかじめご
了承ください。朝
から廻りはじめま
すが、後半は午後
になります。

まもなくお盆を迎えます。お盆
は、普段から何も催促なさらない
ご先祖さまとの語らいの時でもあ
ります。8月13日が迎え火にあた
り、16日が送り火です。お墓をき
れいに掃除して、ご家庭では仏壇
を丹念に掃除して、お花、ろうそ
く、お線香、果物、お菓子、季節
の野菜などを供えます。



棚 経

たなぎょう